



1、探究の最終発表



3年生は、国公立大の前期日程試験が終了し、本日卒業式が挙行されました。卒業式後も入試は継続され、前期日程の合格発表は3月6日(金)から3月10日(火)、中期日程試験は3月8日(日)以降、後期日程試験は3月12日(木)以降に実施されます。入試は何が起こるか予測できませんので、最後まであきらめずに頑張してほしいと思います。そして、1・2年生は、1年間の探究活動の成果について発表が行われ、インタビュー等でお世話になった外部機関の方々が20名ほど来校していただき、講評もいただくことができました。あらためて、探究と進路との関係についてご紹介します。

(1) 一般選抜と総合型選抜の評価の違い

① 総合型選抜とは

- ・大学側が「求める学生像(アドミッション・ポリシー)」をあらかじめ示し、受験生がそれにふさわしい人物がどうかを評価する入試方式

例) 前橋工科大学(アドミッション・ポリシー) ※一部抜粋

- ・生活・情報空間を工学的にデザインする技術者を育成
 - ・持続的社会の形成に役立て、工学を手がかりに考えたい人物
- ・選考方法 … 志望理由書、面接や小論文が多い
- 学力試験で測ることが難しい思考力や判断力、学びへの意欲などを幅広く評価
- 受験生にとっては、大学受験の機会が増え、早い時期に合格できるメリットも

② 総合型選抜の定員枠が増加へ

- ・新学習指導要領に沿って、高校で探究学習に取り組み、知識だけでなく、それを活用する力、学びに向かう姿勢など幅広い能力をバランスよく身につけた受験生を評価する大学が増加へ



一般選抜に比べ、そうした能力を評価しやすい入試 = **総合型選抜**

(2) 4つのプロセスとは?

- 1 **課題の設定** → 自分の関心に気づき、課題や問いを見出す
- 2 **情報の収集** → 文献調査やインタビュー、実験、フィールドワークなどの方法で情報収集
- 3 **整理・分析** → 集めた情報を取捨選択し、考察のために整理・分析する
- 4 **まとめ・表現** → 発表を通じて気づきをまとめる

探究学習では、4つのプロセスが重要となります。その理由は、グローバル化やAI技術の発展など、今後ますます予測困難な時代になります。このような答えのない問いに向き合い、解決を目指すには探究学習で身につけた力が求められます。例えば、探究学習で得た「主体的に課題を見つける力」や「協働して解決する力」は、将来どんな仕事でも役立ちます。

【4つのプロセスの具体例】

1 課題の設定

- ・模試における志望校の判定「D」
- ・主要3教科（国数英）のうち、英語が苦手科目
- ・経済的にも、国公立大を志望

「目指せ！志望校への合格」という、
課題を設定（＝探究学習のスタート地点）

2 情報の収集

- ・模試の結果を分析 → 全体の得点率は？・苦手科目の英語の得点は？・他の科目の結果は？
- ・担任、教科担当への面談・質問 → 志望校の合格に向けた方策・苦手科目の克服のアドバイス
- ・昨年度の入試の結果 → 共通テストの得点率・二次個別試験での逆転が起きているか

3 整理・分析

- ・共通テストで得点率75%必要 → 英語で75%は厳しい（得意科目で85%の得点で挽回可）
- ・共通テストよりも二次個別試験の配点が高い → 記述対策が必要
- ・総合型選抜や学校推薦型選抜をチャレンジしてみても → 探究学習の成果をいかす

4 まとめ・表現

① 志望校合格に向けて、共通テストの得点率〇〇%を確認

→ 各教科で目標となる得点を設定し、その得点をとるための計画立案が必要 = **戦略その1**

② 国公立大の受験では受験科目が多いため、得意科目で苦手科目をカバーできる

→ 苦手科目を作らないためにも、日々の授業をしっかり受け、学習を継続 = **戦略その2**

→ 私大の受験では、上位難関大学になると英語の配点が高い

③ 入試方式や志望動向を確認

→ 総合型選抜や学校推薦型選抜を有効活用 = **戦略その3**

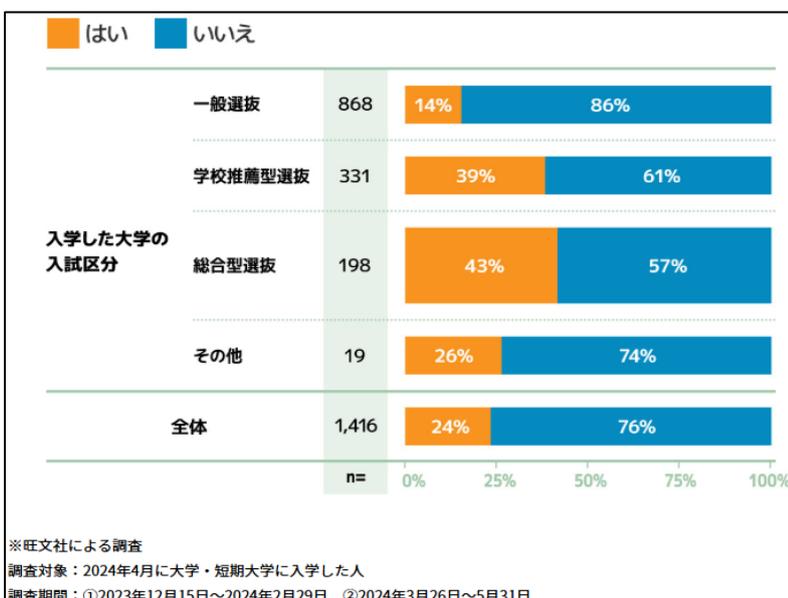
→ 得意科目の配点が高いと有利になる、隔年現象（志望動向に注視）

プロセスを繰り返すことで、より深い探究学習へ

上記のように、「目指せ！志望校への合格」という課題を設定し、4つのプロセスにもとづく探究学習の具体例と、課題を解決するための**戦略その1～その3**を挙げてみました。また戦略を実践してみて、うまくいかない場合や、課題が明らかになれば、同じプロセスを繰り返し行くと、よりよい戦略を立てることも可能です。

「総合的な探究の時間」の成果の大学受験での利用経験

※ 旺文社パスナビ参照



左記の資料のように、2024年度入試を受けた大学1年生に行なった調査結果によると、「総合型選抜で利用した」と回答した割合が43.4%で、一般選抜に比べて3倍以上も多くなっています。探究学習を通して得た興味や関心分野、大学で学びたいこと、将来の目標を志望理由書や活動報告書に記入します。さらに、具体的な活動をもとにした記述を心がけることで、相手に伝わりやすく、探究テーマで異なる分野でも、探究のプロセスで得た力をアピールすることが重要となります。